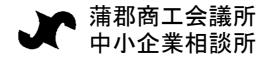
景況調査

報 告 書 No. 93

令和3年10月~ 12月 実績 令和4年1月~ 3月 見通し



令和3年度第3四半期(令和3年10月~12月)景況調査

2. 調査対象

(1)対象地区 蒲郡市内

(2)対象(回答)企業 102 [95 企業、7団体] 三河織物工業(協)、中部繊維ロープ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、蒲郡建設業(協)、三河繊維産元(協)、

蒲郡地区旅館組合、蒲郡鉄工会]

3. 調査方法

4. 回答企業の内訳

聞き取り調査によるアンケート調査

業 種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業	全業種
合 計	47 (3)	8 (2)	14 (1)	17	9 (1)	7	102 (7)

5. 概 況

全業種総合判断DI値(当期実績)は、前期比では-4.0、前期実績(-13.7)に比較すると9.7ポイントと上昇の傾向が見られ、前年同期比では、-16.7、前期実績(-10.0)に比較すると-6.7ポイントと下降の傾向が見られた。売上DI値は、前期比で19.6、前期実績(-0.9)と比較すると20.5ポイントと上昇の傾向が見られた。収益DI値は、前期比で0.0、前期実績(-19.3)と比較すると19.3ポイントと上昇の傾向が見られた。総合判断来期見通しは-33.4、今期の実績(全業種(当期実績)前期比-4.0)と比較すると-29.4ポイントと下降の傾向が見られた。

「製造業」のうち食料品は年末年始の需要期に入り、前年同期比・前期比ともに上回った状況。一時的なコロナ沈静化もあり、人手不足を訴える声もあった。織物は今年は冷え込みが早く冬物は早い時期にピークを迎えた。売上は現状維持も原材料・コスト高が収益を圧迫。厳しい状況が続く。漁網・ロープは前年同月比で落ち込みは少ないが原材料値上分を価格転嫁しきれず収益減少。鉄工のうちく工作機械関係>日本工作機械工業会の受注総額は10月1492億円、11月1,491億円、6月1,320億円。内需・外需ともに前年同月を大きく上回る。当地区で同様の傾向もコスト負担増による収益悪化が不安材料。く自動車部品関係>トヨタの国内日当たり生産は10月期は部品調達難による減産も11~12月にかけ1万4千台前後へ回復。今後は再び不透明な状況を見込む。化学工業は10-12月期は中国向けを中心に海外市況が順調

「建設業」は官庁工事順調に発注あり、民間工事・自動車関係は設備投資に積極的。いずれにしても技術者確保・人件費増・材料費高が経営の懸案となっている。

「卸売業」のうち、繊維卸は<産業資材>車両用基布は部品供給難による生産調整で需要停滞。他の資材関係でも回復傾向が鈍化。<インテリア>7~9に比べ好転も昨年比では若干ダウン。12月は気温が低く冬物は早めから動きがあるも昨年には届かず。<アパレル>緊急事態宣言明け経済活動が正常化へ。催事向けの資材生地シャーク、タッサー、シャンタンなどの引き合い増加。来春向けのテンセルなど衣料用生地にも動きあり。

-16.7

「小売業」は10~12月コロナ終息に向かい年末商戦に期待も、原油高による仕入価格上昇&天候不順等で消費意欲は低迷。飲食は新型コロナ沈静化、各種消費喚起策(キャンペーン・商品券等)後押し、年末年始の家族・友人等の需要など、小グループ中心に久々に活発な状況。ただし会社関係等の利用は自粛傾向が続く。石油等その他小売は原油価格(WTI期近物1バレル当たり)では、10月期にOPEC協調減産の維持や他のエネルギー供給不足で7年ぶり80ドル台まで上昇。その後オミクロン株の感染拡大による需要縮小で一時60ドル台へ落ち込んだ後、70ドル台で推移。

※ ()は団体

「サービス業」のうち旅館関係は10月~12月は、あいち県民割やeマネーキャンペーン等の効果で個人利用が増加も団体旅行は変わらず低調。売上的にはコロナ前の6割~8割。宿泊者数は7~9割あたりで推移。

「運輸通信業」貨物輸送では半導体・部品供給難により自動車関係は低迷の状況。また燃料費高騰による利益圧迫を訴える声もあった。 設備投資状況は、39事業所(56件)で設備投資が実施され「生産設備(32.1%)」等に投資

された。来期は37事業所(60件)が「生産設備(30%)」等の設備投資を計画している。

経営上の問題点は、売上の停滞・減少、原材料(燃料)高、利幅の縮小、人手不足、競争激化、が項目別で上位を占めている。

当地区において 売上DIは前年同期・前期比とも改善するなど令和3年度第3四半期は回復傾向。業種毎では、製造業関連では回復が続くと共に、まん防・緊急事態宣言等の解除で飲食・観光等のサービス業でも総合的に好判断の増えた時期であった。一方、景気回復が鮮明になると同時に、原材料・部品、人件費、運送費などのコスト高が課題となり、幅広い業種で収益の悪化を訴える声が増えている。経営上の問題点で売上の減少を訴える声が6割を占めると同時に、景気回復に併せてコスト増・収益の圧迫を訴える声が45%に到る。地方における個人消費停滞と景気の減速に加えて厳しい状況が続いている。

全業種(当期実績)

⑥貴社の業況(総合判断)

(DI 単位:%)

-33.4

-4.0

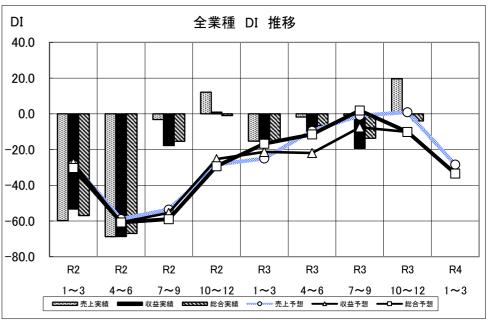
(全業種 各項目期別推移>

(DI 単位:%)

王未悝(ヨ朔夫賴/		(L	1 单位:%)		〈主来性 台項日期別推榜/				(DI 単位:%)		
	前年同期比	前期比	来期見通し		売	上	収	益		総合判断	
	令和2年10月~12月 に比べて	令和3年7月~9月 に比べて	令和4年1月〜3月 の見通し		前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	来期見通し
①生産額·売上額	1.9	19.6	-28.4	R2.10~12月実績	-56.5	12.1	-44.4	0.9	-43.5	-1.0	-16.7
②製品·商品在庫	1.0	0.0	-8.0	R3.1~3月実績	-30.5	-15.3	-25.8	-14.3	-21.9	-15.4	-11.5
③資金繰り	-8.8	-2.9	-17.6	R3.4~6月実績	17.8	-1.8	3.8	-10.5	6.6	-6.6	1.9
④採算(収益)	-19.6	0.0	-33.3	R3.7~9月実績	-12.9	-0.9	-19.3	-19.3	-10.0	-13.7	-10.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-7.9	0.0	-4.9	R3.10~12月実績	1.9	19.6	-19.6	0.0	-16.7	-4.0	-33.4

[総合判断]

業 種	前年同期比	前期比	見通し	業 種	前年同期比	前期比	見通し
全業種	(=5)	\bigcirc) cd	卸売業			
工术性				(繊維卸)		(T) (T)	(; ; ;)
製造業	\bigcirc			小売業			(5,0)
(食料品)				(飲食)			
(織物)	(J) (O) (O) (O) (O) (O) (O) (O) (O) (O) (O			(石油等そ の他小売)			
(漁網・ロープ)		(300)		サービス業	$\binom{\binom{\cdot}{\cdot}}{\binom{\cdot}{\cdot}}$		
(鉄 工)	\bigcirc	$ \begin{pmatrix} \ddots \\ \ddots \end{pmatrix} $		(旅館)			
(化学・プ [°] ラスチック)	() () () () () () () () () ()			運輸通信業			
建設業	(C) (C)		() cd	(旅客·貨物 輸送·水運)			() () () ()



<業況判断DIの推移>

		1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売	上	-59.8	-68.8	-3.2	12.1	-15.3	-1.8	-0.9	19.6	-28.4
収	益	-53.3	-68.7	-17.8	0.9	-14.3	-10.5	-19.3	0.0	-33.3
総	合	-57.0	-67.0	-15.4	-1.0	-15.4	-6.6	-13.7	-4.0	-33.4

◎DI(ディフュージョン・インデックス業況判断指数)について

DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

DI(%)=増加・良好などの割合一減少・悪化などの割合

DIがOより大 ⇒ 景気上向き DIがO ⇒ 景気横ばい DIがOより小 ⇒ 景気下向き

 (注)生産額・売上額:DI=(増加)-(減少)
 採算(収益)
 :DI=(上昇)-(下降)

 製品・商品在庫:DI=(減少)-(増加)
 従業員数
 :DI=(増加)-(減少)

 資金繰り
 :DI=(好転)-(悪化)
 業況(総合判断):DI=(好転)-(悪化)

(総合判断のDIの目安)

DI 50%以上

DI 6~49%

DI 5**∼**−5%







DI -6~-49% DI -50%以下





6. 業種別報告

製造業

売上DI値は27.7、前期実績(7~9月期-1.9)に比して29.6ポイントの上昇、収益DI値は17.0、前期 実績(7~9月期-24.5)に比して41.5ポイントの上昇、総合判断DI値は6.4、前期実績(7~9月期-11.3)に比して17.7ポイントの上昇となった。

<u>向こう3カ月の見通し</u>

売上DI値は-21.3ポイントの下降、収益DI値は-23.4ポイントの下降、総合判断DI値は-23.4ポイントの下降となっている。

製造業

(DI 単位:%)

	前年同期比 ^{令和2年10月~12月} に比べて	前期比 ^{令和3年7月~9月} に比べて	来期見通し ^{令和4年1月~3月} の見通し
①生産額·売上額	27.6	27.7	-21.3
②製品·商品在庫	12.7	8.5	0.0
③資金繰り	0.0	4.3	-10.7
④採算(収益)	-8.5	17.0	-23.4
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-2.1	4.4	2.2
⑥貴社の業況(総合判断)	-4.3	6.4	-23.4

[食料品]

売上DI値は83.3、前期実績(7~9月期14.3)に比して69.0ポイントの上昇、収益DI値は50.0、前期 実績(7~9月期-14.3)に比して64.3ポイントの上昇、総合判断DI値は50.0、前期実績(7~9月期-14.3)に比して64.3ポイントの上昇となった。年末年始の需要期に入り、前年同期比・前期比とも に上回った状況。一時的なコロナ沈静化もあり、人手不足を訴える声もあった。

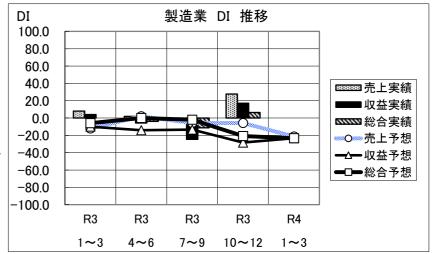
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-83.3ポイントの下降、収益DI値は-50.0ポイントの下降、総合判断DI値は-33.3ポイントの下降となっている。

(食料品)

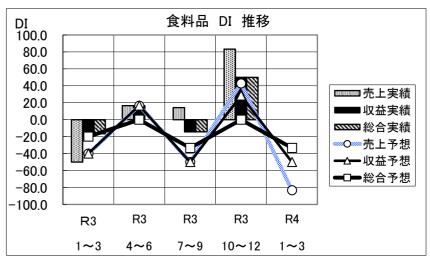
(DI 単位:%)

(A) THE			(D: + E: /0
	前年同期比 ^{令和2年10月~12月}	前期比 ^{令和3年7月~9月}	来期見通し ^{令和4年1月~3月}
① 比 辛 奶 丰 L 奶	に比べて	に比べて	の見通し
①生産額·売上額	83.3	83.3	-83.3
②製品·商品在庫	16.7	16.6	-33.3
③資金繰り	16.7	33.3	0.0
④採算(収益)	50.0	50.0	-50.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-33.3	0.0	-33.3
⑥貴社の業況(総合判断)	33.3	50.0	-33.3



<業況判断DIの推移>

	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	8.0	1.9	-1.9	27.7	-21.3
収益	4.0	-5.7	-24.5	17.0	-23.4
総合	0.0	-3.9	-11.3	6.4	-23.4



	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	-50.0	16.6	14.3	83.3	-83.3
収益	-16.6	16.6	-14.3	50.0	-50.0
総合	-16.6	0.0	-14.3	50.0	-33.3

[織物]

売上DI値は0.0、前期実績(7~9月期-66.7)に比して66.7ポイントの上昇、収益DI値は50.0、前期 実績(7~9月期-33.3)に比して83.3ポイントの上昇、総合判断DI値は50.0、前期実績(7~9月期-33.3)に比して83.3ポイントの上昇となった。

向こう3カ月の見通し

売上DI値は0.0ポイントの横バイ、収益DI値は0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は-50.0ポイントの下降となっている。

(**織物**) (DI 単位:%)

	前年同期比 ^{令和2年10月~12月} に比べて	前期比 ^{令和3年7月~9月} に比べて	来期見通し ^{令和4年1月~3月} の見通し
①生産額·売上額	0.0	0.0	0.0
②製品·商品在庫	-50.0	-50.0	-50.0
③資金繰り	-50.0	0.0	0.0
④採算(収益)	-100.0	50.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	50.0	50.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-100.0	50.0	-50.0

「漁網・ロープ)

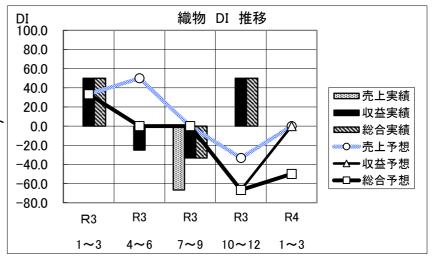
売上DI値は-75.0、前期実績(7~9月期-14.3)に比して-60.7ポイントの下降、収益DI値は-50.0、前期実績(7~9月期-57.1)に比して7.1ポイントの上昇、総合判断DI値は-50.0、前期実績(7~9月期-14.3)に比して-35.7ポイントの下降となった。前年同月比で落ち込みは少ないが原材料値上分を価格転嫁しきれず収益減少。

向こう3カ月の見通し

売上DI値は-50.0ポイントの下降、収益DI値は-75.0ポイントの下降、総合判断DI値は-50.0ポイントの下降となっている。コロナ感染拡大により先行きは不透明。

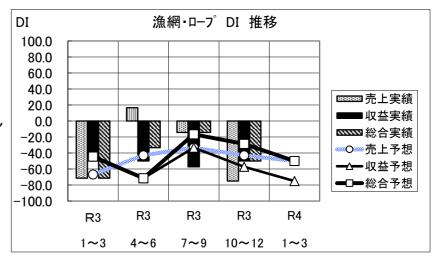
(漁網·ロープ) (DI 単位:%)

/ / / Property / / / / / / / / / / / / / / / / / / /			(DI + DI. 70)
	前年同期比 ^{令和2年10月~12月} に比べて	前期比 ^{令和3年7月~9月} に比べて	来期見通し ^{令和4年1月~3月} の見通し
①生産額·売上額	-50.0	-75.0	-50.0
②製品·商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	0.0	0.0	-25.0
④採算(収益)	-75.0	-50.0	-75.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-25.0	-50.0	-50.0



<業況判断DIの推移>

	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	0.0	0.0	-66.7	0.0	0.0
収益	50.0	-25.0	-33.3	50.0	0.0
総合	50.0	0.0	-33.3	50.0	-50.0



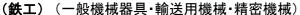
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	-71.4	16.6	-14.3	-75.0	-50.0
収益	-42.9	-50.0	-57.1	-50.0	-75.0
総合	-71.4	-33.3	-14.3	-50.0	-50.0

[鉄 工]

売上DI値は22.8、前期実績(7~9月期8.7)に比して14.1ポイントの上昇、収益DI値は22.8、前期実績(7~9月期-13.0)に比して35.8ポイントの上昇、総合判断DI値は0.0、前期実績(7~9月期-4.4)に比して4.4ポイントの横バイとなった。<工作機械関係>日本工作機械工業会の受注総額は10月1492億円、11月1,491億円、6月1,320億円。内需・外需ともに前年同月を大きく上回る。当地区で同様の傾向もコスト負担増による収益悪化が不安材料。<自動車部品関係>トヨタの国内日当たり生産は10月期は部品調達難による減産も11~12月にかけ1万4千台前後へ回復。今後は再び不透明な状況を見込む。

向こう3カ月の見通し

売上DI値は-9.1ポイントの下降、収益DI値は-18.2ポイントの下降、総合判断DI値は-22.8ポイントの下降となっている。



(DI 単位:%)

	前年同期比 ^{令和2年10月~12月}	前期比 ^{令和3年7月~9月}	来期見通し ^{令和4年1月~3月}		
	に比べて	に比べて	の見通し		
①生産額·売上額	27.2	22.8	-9.1		
②製品·商品在庫	9.1	4.5	9.1		
③資金繰り	0.0	0.0	-13.6		
④採算(収益)	0.0	22.8	-18.2		
⑤従業員数(含む臨時・パート)	14.3	9.5	14.2		
⑥貴社の業況(総合判断)	-4.5	0.0	-22.8		

[化学・プラスチック]

売上DI値は57.1、前期実績(7~9月期-12.5)に比して69.6ポイントの上昇、収益DI値は0.0、前期 実績(7~9月期-37.5)に比して37.5ポイントの上昇、総合判断DI値は-14.3、前期実績(7~9月期-25.0)に比して10.7ポイントの上昇となった。10-12月期は中国向けを中心に海外市況が順調

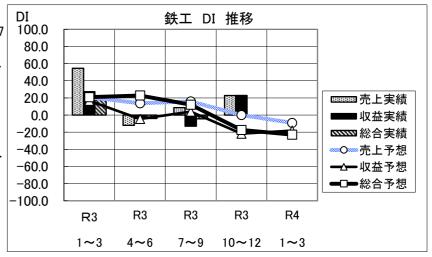
向こう3カ月の見通し

売上DI値は0.0ポイントの横バイ、収益DI値は0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は-28.6ポイントの下降となっている。1~3月期は中国の春節で動きが止まり出荷ダウンも見込むが概ね順調を期待。

(化学・プラスチック)

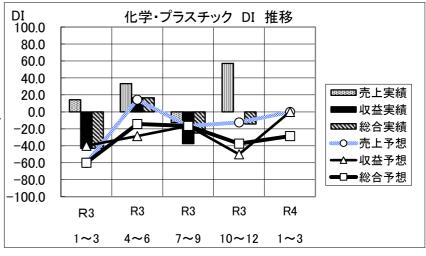
(DI 単位:%)

(ルナ・ノフハノフノ)			(DI 单位: %)
	前年同期比	前期比	来期見通し
	令和2年10月~12月 に比べて	令和3年7月~9月 に比べて	令和4年1月~3月 の見通し
①生産額·売上額	57.1	57.1	0.0
②製品·商品在庫	0.0	0.0	-14.3
③資金繰り	0.0	0.0	0.0
④採算(収益)	-28.5	0.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-14.3	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-14.3	-14.3	-28.6



<業況判断DIの推移>

	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	54.6	-12.0	8.7	22.8	-9.1
収益	27.3	-4.0	-13.0	22.8	-18.2
総合	22.7	-4.0	-4.4	0.0	-22.8



	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	14.3	33.3	-12.5	57.1	0.0
収益	-42.9	16.6	-37.5	0.0	0.0
総合	-42.9	16.6	-25.0	-14.3	-28.6

建設業

売上DI値は-12.5、前期実績(7~9月期44.4)に比して-56.9ポイントの下降、収益DI値は-25.0、前期実績(7~9月期11.1)に比して-36.1ポイントの下降、総合判断DI値は-50.0、前期実績(7~9月期11.1)に比して-61.1ポイントの下降となった。官庁工事順調に発注あり、民間工事・自動車関係は設備投資に積極的。いずれにしても技術者確保・人件費増・材料費高が経営の懸案となっている。

向こう3カ月の見通し

売上DI値は50.0ポイントの上昇、収益DI値は-12.5ポイントの下降、総合判断DI値は-37.5ポイントの下降となっている。官庁工事発注に関し引き続き順調に発注あり。

建設業

(DI 単位:%)

	前年同期比 ^{令和2年10月~12月} に比べて	前期比 ^{令和3年7月~9月} に比べて	来期見通し ^{令和4年1月~3月} の見通し
①生産額·売上額	-12.5	-12.5	50.0
②製品·商品在庫	28.6	28.6	14.3
③資金繰り	-25.0	-25.0	0.0
④採算(収益)	-37.5	-25.0	-12.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	25.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-37.5	-50.0	-37.5

卸売業

売上DI値は-14.3、前期実績(7~9月期-7.1)に比して-7.2ポイントの下降、収益DI値は-35.7、前期実績(7~9月期-21.5)に比して-14.2ポイントの下降、総合判断DI値は-35.7、前期実績(7~9月期-28.6)に比して-7.1ポイントの下降となった。

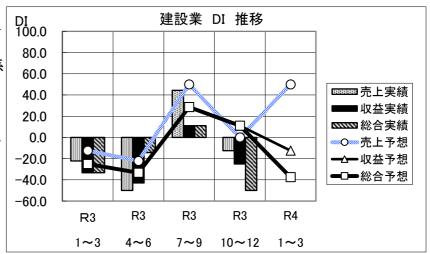
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-50.0ポイントの下降、収益DI値は-50.0ポイントの下降、総合判断DI値は-35.8ポイントの下降となっている。

卸売業

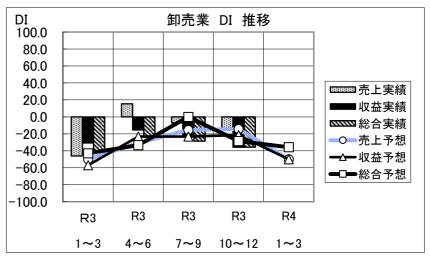
(DI 単位:%)

			(D: + 12.70)
	前年同期比 ^{令和2年10月~12月} に比べて	前期比 ^{令和3年7月~9月} に比べて	来期見通し ^{令和4年1月~3月} の見通し
①生産額·売上額	-42.9	-14.3	-50.0
②製品·商品在庫	-50.0	-50.0	-57.1
③資金繰り	-7.2	-14.3	-14.3
④採算(収益)	-50.0	-35.7	-50.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-35.7	-28.6	-7.2
⑥貴社の業況(総合判断)	-50.0	-35.7	-35.8



<業況判断DIの推移>

	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	-22.2	-50.0	44.4	-12.5	50.0
収益	-33.3	-42.9	11.1	-25.0	-12.5
総合	-33.3	-14.3	11.1	-50.0	-37.5



	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	-46.1	15.4	-7.1	-14.3	-50.0
収益	-30.8	-15.4	-21.5	-35.7	-50.0
総合	-41.7	-23.1	-28.6	-35.7	-35.8

[繊維卸]

売上DI値は-23.1、前期実績(7~9月期-15.4)に比して-7.7ポイントの下降、収益DI値は-46.1、前期実績(7~9月期-23.1)に比して-23.0ポイントの下降、総合判断DI値は-46.1、前期実績(7~9月期-30.8)に比して-15.3ポイントの下降となった。〈産業資材〉車両用基布は部品供給難による生産調整で需要停滞。他の資材関係でも回復傾向が鈍化。〈インテリア〉7~9に比べ好転も昨年比では若干ダウン。12月は気温が低く冬物は早めから動きがあるも昨年には届かず。〈アパレル〉緊急事態宣言明け経済活動が正常化へ。催事向けの資材生地シャーク、タッサー、シャンタンなどの引き合い増加。来春向けのテンセルなど衣料用生地にも動きあり。

向こう3カ月の見通し

売上DI値は-46.1ポイントの下降、収益DI値は-46.1ポイントの下降、総合判断DI値は-30.8ポイントの下降となっている。 〈産業資材〉車両用基布は生産調整で厳しい。他資材関係も勢いを欠く見込み。また原材料・外注費・運送費の高騰等で採算悪化も懸念。〈インテリア〉コロナ感染再拡大で先行き不透明。1~2月は受注減の見込み。3月は反動で多少上向くも、今後の状況次第か。〈アパレル〉再びオミクロン株の感染者増加により先行き不透明の厳しい状況。

(**繊維卸**) (DI 単位:%)

	前年同期比 ^{令和2年10月~12月} に比べて	前期比 ^{令和3年7月~9月} に比べて	来期見通し ^{令和4年1月~3月} の見通し
①生産額·売上額	-53.8	-23.1	-46.1
②製品·商品在庫	-46.2	-46.1	-61.5
③資金繰り	-7.7	-15.4	-15.4
④採算(収益)	-61.5	-46.1	-46.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-38.5	-30.8	-15.4
⑥貴社の業況(総合判断)	-61.5	-46.1	-30.8

小売業

売上DI値は5.9、前期実績(7~9月期-14.3)に比して20.2ポイントの上昇、収益DI値は-23.5、前期 実績(7~9月期-50.0)に比して26.5ポイントの上昇、総合判断DI値は-11.8、前期実績(7~9月期-28.6)に比して16.8ポイントの上昇となった。10~12月コロナ終息に向かい年末商戦に期待も、原油高による仕入価格上昇&天候不順等で消費意欲は低迷。

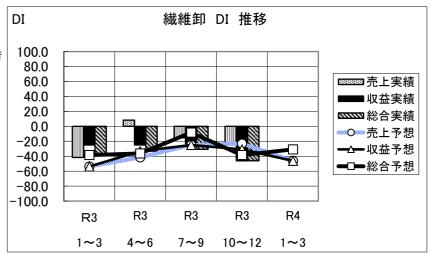
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-41.1ポイントの下降、収益DI値は-35.3ポイントの下降、総合判断DI値は-35.3ポイントの下降となっている。オミクロン株の影響で前年同月比で売上増加の見込みは薄い。

小売業

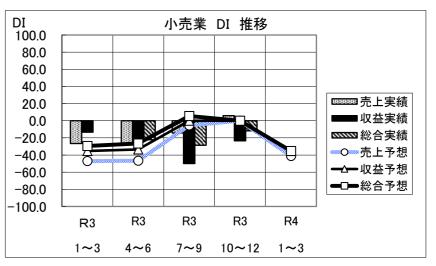
(DI 単位:%)

			(D1 辛四./0/
	前年同期比 ^{令和2年10月~12月} に比べて	前期比 ^{令和3年7月~9月} に比べて	来期見通し ^{令和4年1月~3月} の見通し
①生産額·売上額	-35.3	5.9	-41.1
②製品·商品在庫	11.7	11.7	11.7
③資金繰り	-29.4	-11.7	-35.3
④採算(収益)	-35.3	-23.5	-35.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-23.5	-5.9	-17.6
⑥貴社の業況(総合判断)	-41.2	-11.8	-35.3



<業況判断DIの推移>

	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	-41.7	8.3	-15.4	-23.1	-46.1
収益	-25.0	-25.0	-23.1	-46.1	-46.1
総合	-36.4	-33.3	-30.8	-46.1	-30.8



	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	-26.6	-27.8	-14.3	5.9	-41.1
収益	-13.3	-23.6	-50.0	-23.5	-35.3
総合	0.0	-22.2	-28.6	-11.8	-35.3

[飲 食]

売上DI値は0.0、前期実績(7~9月期-50.0)に比して50.0ポイントの上昇、収益DI値は0.0、前期実績(7~9月期-50.0)に比して50.0ポイントの上昇、総合判断DI値は33.3、前期実績(7~9月期-50.0)に比して83.3ポイントの上昇となった。新型コロナ沈静化、各種消費喚起策(キャンペーン・商品券等)後押し、年末年始の家族・友人等の需要など、小グループ中心に久々に活発な状況。ただし会社関係等の利用は自粛傾向が続く。

向こう3カ月の見通し

売上DI値は-66.7ポイントの下降、収益DI値は-33.3ポイントの下降、総合判断DI値は-33.3ポイントの下降となっている。新型コロナの感染再拡大で急転。予約等も激減し再び厳しい状況へ。今後も不透明な状況が続く見込み。

(**飲食**) (DI 単位:%)

	前年同期比 ^{令和2年10月~12月} に比べて	前期比 ^{令和3年7月~9月} に比べて	来期見通し ^{令和4年1月~3月} の見通し
①生産額·売上額	33.3	0.0	-66.7
②製品·商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	33.3	33.3	-33.3
④採算(収益)	0.0	0.0	-33.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	33.3	33.3	-33.3

[石油等その他小売]

売上DI値は-33.3、前期実績(7~9月期14.3)に比して-47.6ポイントの下降、収益DI値は-33.3、前期実績(7~9月期-42.8)に比して9.5ポイントの上昇、総合判断DI値は-33.3、前期実績(7~9月期0.0)に比して-33.3ポイントの下降となった。原油価格(WTI期近物1バレル当たり)では、10月期にOPEC協調減産の維持や他のエネルギー供給不足で7年ぶり80ドル台まで上昇。その後オミクロン株の感染拡大による需要縮小で一時60ドル台へ落ち込んだ後、70ドル台で推移。

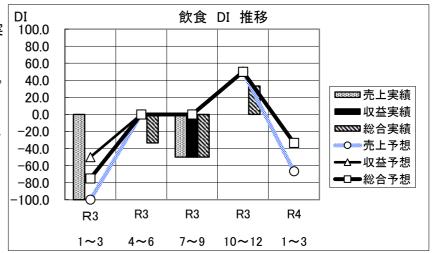
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-50.0ポイントの下降、収益DI値は-50.0ポイントの下降、総合判断DI値は-33.3ポイントの下降となっている。OPECプラスの増産抑制、米国シェールオイルの回復遅れが続く。また、温室効果ガス抑制による環境規制強化の動きもあり原油相場に注視。

(石油等その他小売)

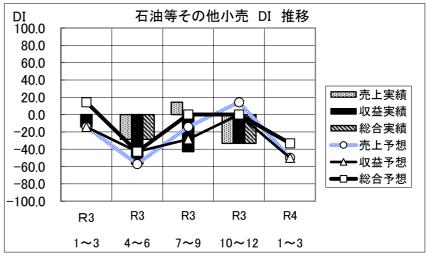
(DI 単位:%)

(11 曲寺での他かが)			(DI 里位:%)
	前年同期比	前期比	来期見通し
	令和2年10月~12月 に比べて	令和3年7月~9月 に比べて	令和4年1月~3月 の見通し
	1020 10	1620 - 6	の 力し起じ
①生産額·売上額	-66.7	-33.3	-50.0
②製品·商品在庫	16.7	16.7	16.7
③資金繰り	-33.3	0.0	-33.3
④採算(収益)	-50.0	-33.3	-50.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-16.7	16.7	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-50.0	-33.3	-33.3



<業況判断DIの推移>

	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	-100.0	0.0	-50.0	0.0	-66.7
収益	0.0	0.0	-50.0	0.0	-33.3
総合	0.0	-33.4	-50.0	33.3	-33.3



	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	0.0	-28.6	14.3	-33.3	-50.0
収益	-14.3	-57.1	-42.8	-33.3	-50.0
総合	0.0	-28.6	0.0	-33.3	-33.3

サービス業

売上DI値は55.6、前期実績(7~9月期0.0)に比して55.6ポイントの上昇、収益DI値は44.5、前期実績(7~9月期18.1)に比して26.4ポイントの上昇、総合判断DI値は22.2、前期実績(7~9月期9.1)に比して13.1ポイントの上昇となった。

向こう3カ月の見通し

売上DI値は-77.8ポイントの下降、収益DI値は-55.6ポイントの下降、総合判断DI値は-66.7ポイントの下降となっている。

サービス業

(DI 単位:%)

	前年同期比 ^{令和2年10月~12月} に比べて	前期比 ^{令和3年7月~9月} に比べて	来期見通し ^{令和4年1月~3月} の見通し
①生産額·売上額	-33.4	55.6	-77.8
②製品·商品在庫	-11.1	0.0	-11.1
③資金繰り	0.0	22.2	-44.4
④採算(収益)	11.1	44.5	-55.6
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-11.1	22.2	-11.1
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	22.2	-66.7

[旅館]

売上DI値は100.0、前期実績(7~9月期28.5)に比して71.5ポイントの上昇、収益DI値は100.0、前期実績(7~9月期14.2)に比して85.8ポイントの上昇、総合判断DI値は80.0、前期実績(7~9月期14.3)に比して65.7ポイントの上昇となった。10月~12月は、あいち県民割やeマネ―キャンペーン等の効果で個人利用が増加も団体旅行は変わらず低調。売上的にはコロナ前の6割~8割。宿泊者数は7~9割あたりで推移。

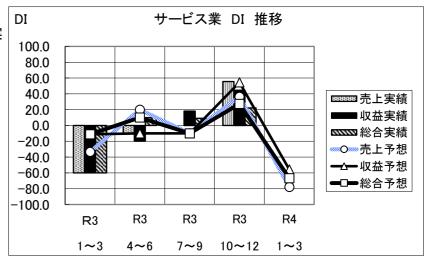
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-80.0ポイントの下降、収益DI値は-100.0ポイントの下降、総合判断DI値は-100.0ポイントの下降となっている。オミクロン株感染拡大でキャンセル続発。がまごおり観光応援券などの後押しに感謝している。また燃料・食材等のコスト増も価格転嫁できず利益を圧迫。今後、各種制度融資の返済時期を迎えるなか一刻も早いコロナ収束を願う。

(旅館)

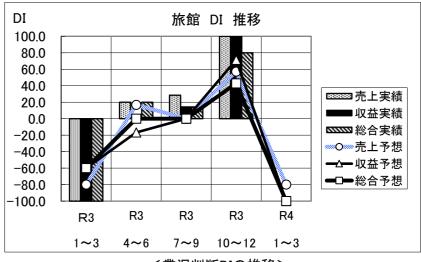
(DI 単位·%)

		(DI 単位:%)
前年同期比 ^{令和2年10月~12月} に比べて	前期比 ^{令和3年7月~9月} に比べて	来期見通し ^{令和4年1月~3月} の見通し
20.0	100.0	-80.0
-20.0	0.0	-20.0
20.0	60.0	-60.0
40.0	100.0	-100.0
-20.0	20.0	-20.0
40.0	80.0	-100.0
	令和2年10月~12月 に比べて 20.0 -20.0 20.0 40.0 -20.0	令和2年10月~12月 に比べて 令和3年7月~9月 に比べて 20.0 100.0 -20.0 0.0 20.0 60.0 40.0 100.0 -20.0 20.0



<業況判断DIの推移>

	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	-60.0	-10.0	0.0	55.6	-77.8
収益	-60.0	-20.0	18.1	44.5	-55.6
総合	-60.0	10.0	9.1	22.2	-66.7



	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	-100.0	20.0	28.5	100.0	-80.0
収益	-100.0	0.0	14.2	100.0	-100.0
総合	-100.0	20.0	14.3	80.0	-100.0

運輸通信業

売上DI値は-14.3、前期実績(7~9月期-12.5)に比して-1.8ポイントの横バイ、収益DI値は28.6、前期実績(7~9月期-37.5)に比して66.1ポイントの上昇、総合判断DI値は0.0、前期実績(7~9月期0.0)に比して0.0ポイントの横バイとなった。

向こう3カ月の見通し

売上DI値は-57.1ポイントの下降、収益DI値は-42.9ポイントの下降、総合判断DI値は0.0ポイントの横バイとなっている。

運輸通信業

(DI 単位:%)

	前年同期比 ^{令和2年10月~12月} に比べて	前期比 ^{令和3年7月~9月} に比べて	来期見通し ^{令和4年1月~3月} の見通し
①生産額·売上額	71.4	57.1	-28.6
②製品·商品在庫	-16.6	-16.6	-33.3
③資金繰り	-14.3	-14.3	-14.3
④採算(収益)	-14.3	-14.3	-57.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	14.3	14.3	-14.3
⑥貴社の業況(総合判断)	28.5	28.6	-42.9

[旅客·貨物輸送·水運]

売上DI値は57.1、前期実績(7~9月期0.0)に比して57.1ポイントの上昇、収益DI値は-14.3、前期 実績(7~9月期-14.3)に比して0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は28.6、前期実績(7~9月期-28.6)に比して57.2ポイントの上昇となった。半導体・部品供給難により自動車関係は低迷の状況。また燃料費高騰による利益圧迫を訴える声もあった。

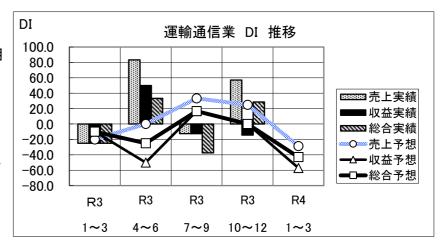
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-28.6ポイントの下降、収益DI値は-57.1ポイントの下降、総合判断DI値は-42.9ポイントの下降となっている。コロナ感染再拡大による経済の影響を懸念も、堅調な製造業等を中心に一定の需要は見込まれている。

(旅客・貨物輸送・水運)

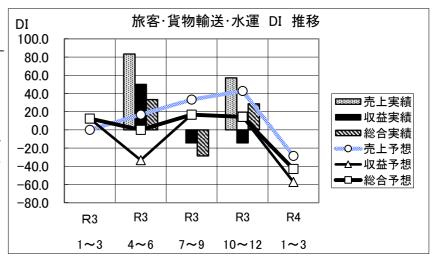
(DI 単位:%)

(水谷 貝物制及 小足/			(DI 単位:%)
	前年同期比	前期比	来期見通し
	令和2年10月~12月 に比べて	令和3年7月~9月 に比べて	令和4年1月~3月 の見通し
①生産額·売上額	71.4	57.1	-28.6
②製品·商品在庫	-16.6	-16.6	-33.3
③資金繰り	-14.3	-14.3	-14.3
④採算(収益)	-14.3	-14.3	-57.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	14.3	14.3	-14.3
⑥貴社の業況(総合判断)	28.5	28.6	-42.9



<業況判断DIの推移>

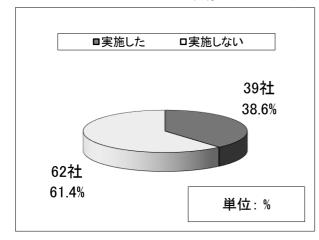
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	-25.0	83.3	-12.5	57.1	-28.6
収益	-25.0	50.0	-12.5	-14.3	-57.1
総合	-25.0	33.3	-37.5	28.6	-42.9

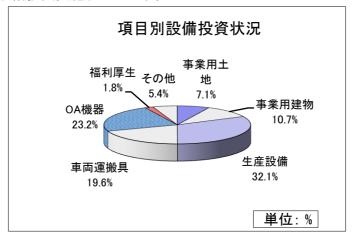


	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	0.0	83.3	0.0	57.1	-28.6
収益	0.0	50.0	-14.3	-14.3	-57.1
総合	0.0	33.3	-28.6	28.6	-42.9

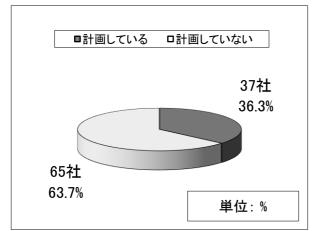
7. 設備投資動向

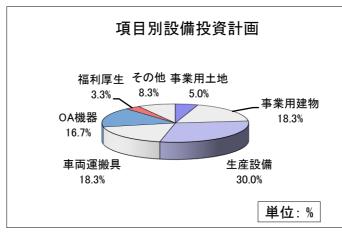
<今期 R3.10 ~ 12) 設備投資実施状況 全業種>





<来期 R4.1 ~ 3) 設備投資実施状況 全業種>





◎設備投資·計画内容(全業種)

	今	期	来期見通し
事業用土地		4	3
事業用建物		6	11
生産設備		18	18
車両運搬具		11	11
OA機器		13	10
福利厚生		1	2
その他		3	5
計		56	60

(単位:件)

◎今期·来期 設備投資実施、計画動向

(単位·車業所)

								(<u>+ u + x iii</u>
		全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業
1. 今期	R3.10 ~ 12	39	26	2	1	4	2	4
2. 来期	R4.1 ~ 3	37	20	4	2	7	2	2

8. 経営上の問題点

項目別経営上の問題点(全業種)

(上位5項目 回答企業数 102 社)

	項目	件 数 %
1	売上の停滞・減少	64 62.7%
2	原材料(燃料)高	46 45.1%
3	利幅の縮小	45 44.1%
4	人手不足	26 25.5%
5	競争激化	17 16.7%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

業種別経営上の問題点 (上位3項目)

	1 '	位	2	位	3 位		
製造業	売上の停	滞∙減少	原材料()	然料)高	利幅の縮小		
47 社	29 社	61.7%	26 社	55.3%	20 社	42.6%	
建設業	売上の停	滞∙減少	利幅の	縮小	人手不足		
8 社	4 社	50.0%	3 社	37.5%	3 社	37.5%	
卸売業	売上の停	滞∙減少	原材料()	然料)高	利幅の縮小		
14 社	11 社	78.6%	8 社	57.1%	7 社	50.0%	
小売業	売上の停	滞∙減少	利幅の	縮小	人手	不足	
17 社	11 社	64.7%	7 社	41.2%	6 社	35.3%	
サービス業	売上の停滞・減少		利幅の縮小		競争激化		
9 社	8 社	88.9%	4 社	44.4%	3 社	33.3%	
運輸通信業	利幅の	縮小	人件費(の増加	人手不足		
7 社	4 社	57.1%	3 社	42.9%	3 社	42.9%	

(複数回答の為、総数と一致しません。)

付帯調査(地域データ) No. 93

番号	調査項目	単位	R04.02報告	基準日	R03.11報告	基準日	R03.08報告	基準日	R03.05報告	基準日	出典	
1	人口	人	79,346	R3.12.1	79,447	R3.9.1	79,468	R3.7.1	79,558	D2 / 1	蒲郡市市民課 住民基本台帳	
•	(うち外国人)		3,198	1.0.12.1	3,211	110.0.1	3,224	1.0.1.1	3,229	1.0.1.1	IN THE PROPERTY OF THE PROPERT	
2	世帯数	世帯	33,179	R3.12.1	33,179	R3.9.1	34,763	R3.7.1	33,045	R3.4.1	IJ	
_	(うち外国人)	<u> </u>	1,507	110.12.1	1,540	110.0.1	1,572	110.111	1,513	1.1.1.1		
3	15才~65才生産人口	人	47,303	R3.12.1	47,362	R3.9.1	47,406	R3.7.1	47,518	R3.4.1	IJ	
	(うち外国人)	/ (2,626	110.12.1	2,645	110.0.1	2,665	2,665	2,669			
4	全国完全失業率	%	2.8	R3.11月	2.8	R3.8月	3.0	R3.5月	2.9	R3.2月	-	
	愛知県完全失業率	%		R3.10~12月	2.5	R3.7~9月	2.7	R3.4~6月	2.7	R3.1~3月		
5	全国有効求人倍率	倍	1.15	R3.11月	1.14	R3.8月	1.09	R3.5月	1.09		厚生労働省 「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」	
3	蒲郡管内有効求人倍率	倍	0.69	R3.11月	0.62	R3.8月	0.59	R3.5月	0.82		豊川公共職業安定所蒲郡出張所 業務月報より	

全国データ	-		

<u> </u>	国データ	労働		設備投資	住字投資	GDP·景氛	動向指数	消	消費	
	完全失業者数	完全失業率	有効求人倍率	機械受注	新設住宅着工	名目国内総生産	実質成長率	消費支出	新車販売台数(登録車)	
	(万人)	(季調・%)	(季調•倍)	(船舶を除く)前年同月比(%)	(戸数)	(兆円)	実質季節調整系列(前期比)	前年同月比% (実質)	(万台)	
1996年度	225	3.3	0.72	11.4	1,630,378	528.8	2.9	1.0	-	
1997年度	236	3.5	0.69	▲ 3.9	1,341,347	533.4	0.0	▲ 0.2	-	
1998年度	294	4.3	0.50	▲ 18.6	1,179,536	526.0	▲ 0.9	▲ 0.8	-	
1999年度	320	4.7	0.49	0.6	1,226,207	521.9	0.7	▲ 1.8	_	
2000年度	320	4.7	0.59	16.6	1,213,157	528.4	2.5	▲ 1.2	-	
2001年度	340	5.0	0.59	▲ 12.6	1,173,170	519.2		▲ 1.7	-	
2002年度	359	5.4	0.54	▲ 3.7	1,145,553	514.9	0.9	0.1	_	
2003年度	350	5.3	0.64	8.2	1,173,649	517.7	2.0	▲ 1.0	588.7	
2004年度	313	4.7	0.83	6.5	1,193,038	521.3	1.7	0.4	582.1	
2005年度	294	4.4	0.95	5.6	1,249,366	525.6	1.0	▲ 0.4	586.2	
2006年度	275	4.1	1.06	5.0	1,285,246	529.0	1.4	▲ 2.2	561.9	
2007年度	257	3.9	1.04	2.3	1,035,598	530.9	1.2	0.9	532.0	
2008年度	265	4.0	0.88	▲ 16.6	1,039,214	509.5	▲ 3.4	▲ 1.9	470.1	
2009年度	336	5.1	0.47	▲ 15.4	775,277	492.0	▲ 2.2	▲ 0.2	488.0	
2010年度	334	5.1	0.52	19.4	819,020	499.4	3.3	0.3	460.1	
2011年度	284	4.5	0.65	4.2	841,246	494.0	0.5	▲ 2.2	475.3	
2012年度	285	4.3	0.80	▲ 7.1	893,002	494.4	0.8	1.1	521.0	
2013年度	265	4.0	0.93	10.6	987,254	507.3	2.6	1.0	569.2	
2014年度	236	3.6	1.09	8.0	880,470	518.2	▲ 0.4	▲ 2.9	529.7	
2015年度	222	3.4	1.23	▲ 1.2	920,537	532.9	1.3	▲ 2.3	493.8	
2016年1月	215	3.2	1.28	▲ 11.3	67,815			▲ 3.1	23.7	
(平成28年)2月	217	3.3	1.28	▲ 6.7	72,831	135.8	0.7	1.2	27.5	
3月	214	3.2	1.30	9.8	75,744			▲ 5.3	40.4	
4月	214	3.2	1.34	▲ 1.1	82,398			▲ 0.4	21.2	
5月	212	3.2	1.36	▲ 7.3	78,728	134.2	▲ 0.1	▲ 1.1	22.3	
6月	208	3.2	1.37	1.3	85,953			▲ 2.2	28.7	
7月	201	3.1	1.37	▲ 4.2	85,208			▲ 0.5	28.1	
8月	208	3.1	1.37	0.2	82,242	132.6	0.2	▲ 4.6	22.3	
9月	202	3.0	1.38	▲ 4.5	85,622			▲ 2.1	31.7	
10月	198	3.0	1.40	▲ 10.9	87,707			▲ 0.4	24.2	
11月	200	3.1	1.41	24.5	85,051	141.6	0.2	▲ 1.5	27.3	
12月	202	3.1	1.43	17.3	78,406			▲ 0.3	26.4	
2017年1月	202	3.0	1.43	10.7	76,491			▲ 1.2	25.8	
(平成29年)2月	192	2.8	1.43	▲ 0.7	70,912	136.2	0.8	▲ 3.8	31.2	
3月	187	2.8	1.45	▲ 12.5	75,887			▲ 1.3	46.0	
4月	187	2.8	1.48	▲ 0.2	83,979			▲ 1.4	22.4	
5月	206	3.1	1.49	8.6	78,481	136.0	0.4	▲ 0.1	23.7	
6月	190	2.8	1.51	3.4	87,456			2.3	31.5	
7月	189	2.8	1.52	10.5	83,234			▲ 0.2	27.8	
8月	185	2.8	1.52	19.7	80,562	135.1	0.7	0.6	23.3	
9月	188	2.8	1.52	7.6	83,128			▲ 0.3	31.8	
10月	184	2.8	1.55	12.3	83,057			0.0	23.1	
11月	180	2.7	1.56	5.8	84,703	144.3	0.2	1.7	25.8	
12月	181	2.8	1.59	▲ 6.6	76,751			▲ 0.1	26.2	
2018年1月	164	2.4	1.59	8.7	66,358			2.0	24.3	
(平成30年)2月	170	2.5	1.58	7.8	69,071	138.9	0.1	0.1	29.6	
3月	172	2.5	1.59	▲ 2.8	69,616			▲ 0.2	43.8	
4月	172	2.5	1.59	11.4	84,226			▲ 1.3	22.5	
5月	155	2.2	1.60	15.3	79,539	137.8	0.3	▲ 3.9	23.6	
6月	167	2.4	1.62	▲ 4.2	81,275			▲ 1.2	29.2	
7月	170	2.4	1.63	11.3	82,615			0.1		
8月	166	2.4	1.63	4.9	81,860	135.1	▲ 0.8	2.8	23.3	
9月	161	2.3	1.64	▲ 5.4	81,903			▲ 1.6	30.8	
10月	166	2.4	1.62	6.1	83,330			▲ 0.3	26.1	
11月	169	2.5	1.63	4.0	84,213	144.3	0.0	▲ 0.6	27.9	
12月	164	2.4	1.63	▲ 4.0	78,364			0.1	25.0	
2019年1月	172	2.5	1.63	▲ 8.5	67,087		2.0			
(平成31年)2月	160	2.3	1.63	▲ 3.7	71,966	138.9	0.4	1.7	30.0	
3月	174	2.5	1.62	▲ 0.2	76,558			2.1	41.7	
4月	168	2.4	1.63	▲ 6.0	79,389	100 5		1.3	23.0	
(令和元年)5月	162	2.4	1.62	▲ 10.1	72,581	138.5	0.4	4.0	24.7	
6月	161	2.3	1.61	0.9	81,541			2.7	29.0	
7月	154	2.2	1.59	▲ 10.6	79,232	1000	A 0.4	0.8	30.0	
8月	154 167	2.2 2.4	1.59 1.58	0.9 ▲ 6.4	76,034 77,915	136.9	▲ 0.1	1.0 9.5	24.2 34.7	
10月	166	2.4	1.58	▲ 8.8	77,915			9.5 ▲ 5.1	19.2	
11月	151	2.2	1.57	▲ 15.2	77,123	144.0	▲ 2.4	▲ 3.1 ▲ 2.0		
12月	145	2.2	1.57	▲ 7.9	72,174	177.0	= 2.4	▲ 4.8	22.6	
2020年1月	159	2.3	1.49	▲ 0.8	60,341			▲ 3.9	22.1	
(令和2年)2月	159	2.4	1.45	▲ 7.7	63,105	137.7	0.3	▲ 0.3	26.8	
3月	176	2.5	1.39	0.1	70,729	137.7	0.3	▲ 6.0		
4月	189	2.6	1.32	▲ 10.1	69,162			▲ 11.1	17.2	
5月	198	2.9	1.20	▲ 20.9	63,839	126.2	▲ 8.0	▲ 16.2	14.7	
6月	195	2.8	1.11	▲ 20.9	71,101	120.2	■ 0.0	▲ 1.2	21.4	
7月	197	2.9	1.08	▲ 17.9	70,244			▲ 7.6	23.9	
8月	206	3.0	1.04	▲ 17.0	69,101	131.0	5.1	▲ 6.9	19.7	
9月	210	3.0	1.03	▲ 1.5	70,186	101.0	0.1	▲ 10.2	29.3	
10月	215	3.1	1.04	▲ 1.2	70,685			1.9	25.3	
11月	195	2.9	1.06	1.3	70,798	143.1	2.3	1.1	25.3	
12月	194	2.9	1.06	18.7	65,643	1 10.1	2.0	▲ 0.6	24.3	
2021年1月	197	2.9	1.10	▲ 1.0	58,448			▲ 6.1	23.6	
(令和3年)2月	194	2.9	1.09	39.8	60,764	135.0	▲ 0.7	▲ 6.8	26.2	
3月	188	2.6	1.10	▲ 5.4	71,787	.00.0	0.7	6.2	38.4	
4月	209	2.8	1.09	14.7	74,521			13.0	21.0	
5月	211	3.0	1.09	41.1	70,178	133.9	0.5	11.6	19.3	
6月	206	2.9	1.13	35.5	76,312	100.9	0.5	▲ 5.1	23.4	
7月	191	2.8	1.15	43.9	77,182			0.7	23.4	
8月	193	2.8	1.14	20.6	74,303	130.9	▲ 0.9	▲ 3.0		
9月	192	2.8	1.16	12.6	73,178	100.9	_ 0.3	▲ 1.9	20.5	
10月	183	2.7	1.15	28.3	78,004			▲ 0.6	17.6	
11月	182	2.8	1.15	24.7	73,414			▲ 1.3	21.9	
12月			•		,				21.8	
				(内閣府)	(国土交通省)	(内閣	5 (4)	(総務省)	(自販連統計)	

(内閣府) (国土交通省) (内閣府) (総務省) (自販連統計)